

施工の現場から 産業用太陽光発電O&M

エナジービジョン

代表取締役
奥山 恭之

第15回 低調な発電量、「O&M業者の人的要因」の場合も

産業用太陽光発電所で、さまざまなトラブルが発生し始めている(写真はイメージ)



「電柱の影が掛かっていてるので、それが原因では？」というばかりで問題はない、という。それでも納得できず、新エネルギーサポートにスポット点検の依頼をしてきた。幸い遠隔監視はパソコン単位でデータ取得できる仕様だった。問題のパワコンのストリングを、太陽光発電

度下落していることを見つけた。パワコンには4ストリングが入力されていたため、「25%下落」ということは、1ストリング落ちてるかな？」と当たりをつけてから、現場の点検に向かった。断線なので開放電圧も出しておらず、本来ならソコデスまで使わずとも、電圧を計るだけでも問題は見つけれられる。(ソコデスを使った方が、断線箇所まで特定できるためずっと早く問題箇所を見つけれられる)

ところが、前に点検したO&M業者は、前述のとおり「特に問題ない。電柱の影が……」と説明していたという。以上の状況からすると、この業者は、ストリングの断線を見逃すほどレベルが低い点検だった

●実は点検していなかった
のどちらかに該当すると判断するのが妥当だろう。新エネルギーサポートのスポット点検で、あつという間に発見できる、かなり初歩的なトラブルだったが、この程度でも見逃してしまう(？)O&M業者が存在することは事実なのだ。ダメなところに頼んでも、問題を発見できず見逃してしまう、という実例で、似たような話は他にも散見される。発電量を左右するのは、発電機器と天候、O&Mだ。この中でO&Mは、業務の中で最も人的要素の占める割合が高い。そして現時点のO&M業者のレベル差はほとんどなく大きい、ということに覚えておくべきだろう。

先日、ある発電事業者から低圧太陽光発電所のスポット点検の依頼を受け、他の区画と比べるけたケースを紹介しよう。状況としては、遠隔監視で「発電量が少ない気

がする」とのこと。複数の分譲区画を所有しておVで送ってもらい、それを解析した。すると、特定のパワコンの発電量が常に25%程度下落していることを見つけた。

システムの電氣的不具合を容易に発見できる点検機器であるソコデスで計測したところ、予想通り1ストリング断線している箇所を発見。

断線なので開放電圧も出しておらず、本来ならソコデスまで使わずとも、電圧を計るだけでも問題は見つけれられる。(ソコデスを使った方が、断線箇所まで特定できるためずっと早く問題箇所を見つけれられる)

ところが、前に点検したO&M業者は、前述のとおり「特に問題ない。電柱の影が……」と説明していたという。以上の状況からすると、この業者は、ストリングの断線を見逃すほどレベルが低い点検だった